

〈日本キリスト教婦人矯風会 8.6 平和を考えるつどい〉

無言館・信濃デッサン館 館主

窪島誠一郎さんをお迎えして

信州・上田の地に静かに佇む美術館「無言館」は、戦場に散った画学生たちの残した絵画や作品を展示しています。今年の「平和を考えるつどい」では館主の窪島誠一郎さんをお迎えします。



演題

「無言館」のこと ～戦没画学生の絵が伝えるもの～

8月6日(火)

13:30 ~ 15:30 (開場 13:00)

矯風会館 1階ホール (JR 大久保駅北口 1分、ウラに地図)

前売りチケット (900円) 発売中!
会員 800円 (お求め方法はウラへ)

当日 1,200円 (会員も同じ)
※定員になり次第、締め切らせていただきます。

主催・お問い合わせ：公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会

講師：窪島誠一郎（くぼしま・せいいちろう）氏 プロフィール

1941年東京生まれ。印刷工、酒場経営などを経て、64年東京世田谷に小劇場の草分け「キッド・アイラック・アート・ホール」を設立、また79年長野県上田市に夭折画家のデッサンを展示する私設美術館「信濃デッサン館」、98年に戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立した。執筆活動では実父水上勉との再会を綴った『父への手紙』（筑摩書房）がNHKテレビドラマ化。ほかに『信濃デッサン館日記・I・II・III・IV』（平凡社）、『漂泊・日系画家野田英夫の生涯』（新潮社）、『石榴と銃』『鬼火の里』（集英社）、『無言館ものがたり』『無言館の青春』（講談社）、絵本『約束』『いのち』（アリス館）、『「無言館」への旅』『高間筆子幻集』『絵を見るヒント』（白水社）などの画家の評伝、美術論を中心にした多数の著書がある。

第46回産経児童出版文化賞、第14回地方出版文化功労賞、第7回信毎賞、第13回NHK地域放送文化賞を受賞。2005（平成17）年、「無言館」の活動で第53回菊池寛賞受賞。

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会きょうふうかいは…

1886年（明治19年）創立で、日本で一番歴史の長い女性団体です。キリスト教精神に基づいて、女性の視点に立ち、すべての人々の人権と平和が守られるよう、困難な状況にある人々特に女性と子どもへの支援につとめ、社会全般の福祉の増進に寄与することをめざしています。

具体的には、武力によらない平和、女性・子どもへの暴力問題、アディクション（依存症）問題などをテーマとした学習会・講演会を多く開催しています。女性のための施設としてシェルター運営も行っています。



8月6日 平和を考えるつどい 前売りチケットお申し込み

郵便局にある振替用紙（青）・通信欄に「8月6日講演会チケット」、またおところ・お名前・電話番号をご記入の上、900円（会員は800円）お振り込みください（振込手数料はお客様のご負担となります。ご了承ください）。

○ 郵便振替口座 **00140-1-32469**
加入者名「日本キリスト教婦人矯風会」

お振込み時の振替受領証とチケットを引き換えますので、受領証をなくさず8/6（火）当日にお持ちくださいますよう、お願い致します。



所在地：東京都新宿区百人町2-23-5
電話：03 (3361) 0934
FAX：03 (3361) 1160
ホームページ：<http://kyofukai.jp/>